

精神科病院におけるAI活用と業務効率化

五稜会病院は外来・入院ともに患者数が多く、診療の質と量の両立が求められている。

しかし、業務負担の増大が課題となっており、従来の方法だけでは限界がある。






AIを活用した業務効率化により、診療の質を保ちながら持続可能な体制への転換が必要である。

目的

AIを活用して記録作成や情報整理等の業務を効率化し、医師およびコメディカルの業務負担を軽減することで、診療・ケアに専念できる時間を確保する。これにより医療の質と安全性の向上を図るとともに、情報共有の迅速化、業務の標準化を推進し、チーム医療の高度化と持続可能な医療提供体制の確立を目的とする。



■ AI導入の優先順位

- 1**  **最優先：音声入力+カルテ下書き**
 外来・入院記録の自動作成
 医師・看護師ともに効果大
 ☞ 効果：即日体感（残業が減る）
 - 2**  **次：病歴・サマリー要約**
 初診病歴の整理
 - 3**  **退院サマリー作成**
 ☞ 効果：質もスピードも上がる
 - 4**  **次：カンファレンス要約・共有**
 会議の自動記録
 決定事項の整理
 ☞ 効果：チーム医療が安定
 - 5**  **次：薬歴整理・可視化**
 処方の時系列整理
 変更履歴の可視化
 ☞ 効果：判断の質向上
- 最後：高度活用（分析・予測など）**
 再入院リスク分析
 治療パターン分析

■ AI導入にあたっての必須事項

- ✓ **院内診療体制への貢献**
- ✓ **組織風土への貢献**
 協働姿勢を持ち、院内の円滑なコミュニケーションと良好な雰囲気作りに寄与
- ✓ **情報共有・教育への協力**
 タフミーティング参加や院内での症例共有やスタッフ教育に協力していること
- ✓ **多職種連携**
 看護師・薬剤師・MHSW等と連携し、協働した診療をしていること



AI × チーム医療で、より良い医療を

AI技術は日進月歩で進展しており、その活用可能性も不断に拡大している。これに対応するためには、院内での継続的な情報共有と意見交換を通じて、適切かつ効果的な活用方法を模索し続ける体制の構築が不可欠である。



AIを味方に、業務を効率化し、患者さん一人ひとりにより多くの時間を。
私たちは、持続可能で質の高い精神科医療を実現します。